


審査委員会報告書

(課程博士用)

報 告 番 号	甲 第 1208号	授 与 年 月 日	平成 30 年 3 月 10 日
学 位	博 士 (看護学)		
氏 名	生 年 月 日	昭和 43 年 9 月 18 日 生	
	氏 名 (国 籍)	善生 まり子	
論 文 題 目	在宅移行期支援における退院調整看護師の実践の構造—専門職連携カンファレンス場面を中心として— Structure of nursing practice implemented by discharge nurses in support during transition to homecare : Focus on interprofessional case conference settings		
主 論 文 冊 数	1 冊		
審査委員会委員	(氏 名) 主査 北里大学 小山 幸代 教授 北里大学 田中 美加 教授 山口大学 永田 千鶴 教授 <div style="text-align: right;">  </div>		
論文内容要旨 審査結果の要旨 試験結果の要旨	別 紙 1 別 紙 2 別 紙 3		
審査委員会の意見	審査の結果、博士（看護学）の学位を授与できると認める。		

- 【注】 1. 報告番号、学位記番号、授与年月日は、研究科委員会の審査後に研究科において記入する。
2. 国籍は、外国人のみ記入する。

看護学研究科

[別紙 2]

審査結果の要旨

審査対象者 善生 まり子

本研究は、在宅移行期支援における退院調整看護師の実践の構造を明らかにすることを目的に、在宅移行期支援の要となる専門職連携カンファレンスに焦点を当て、1) カンファレンスのディスカッション内容、2) 1のカンファレンス終了後に実施したリフレクション内容、3) 1のカンファレンス対象事例の退院後の生活状況について、参与観察とインタビューにより長期間にわたって調査した。調査は首都圏郊外都市の中核病院で実施し、調査対象者は退院調整看護師4名およびカンファレンスに参加した患者5名、家族等19名、専門職者59名であった。分析は、調査1、2、3ともにグラウンデッド・セオリー・アプローチを援用して行い、事例毎に作成したカテゴリー関連図を、順次統合して最終関連図を作成した。

結果、在宅移行期支援における退院調整看護師の実践の構造を次のとおり明らかにした(《 》はカテゴリー)。

退院調整看護師は、専門職連携カンファレンスにおいて、まずは参加者全員に対して、《在宅支援の問題共有によるサービス調整の初期対応》にあたり、専門職者らに対しては、《患者情報の提供による在宅医療ニーズの明確化》の効果をねらって、在宅医療ニーズの程度が複雑であることへの理解を促していた。また、専門職者が各々の立場から、《複雑な患者・家族背景による家族の療養場所選択の揺れや介護負担感の察知》することは重要であり、《患者のセルフケアの多面的問題抽出にむけた多職種専門性発揮の促し》を意識的に行っていた。特に病院薬剤師との《在宅薬物療法に係る患者の自己管理方法の共有》が散見された。これらの経過の中で退院調整看護師は、専門職者らから十分情報提供を受けた頃合いを見計らって、《患者や家族の認識表出の促しによる思いに寄り添った専門職連携実践のための課題の共有》を図っており、これが中心となるカテゴリーであった。そして、《レスパイトケアを意図した在宅支援体制の調整》の道筋をつけることや、病院薬剤師と薬局薬剤師や病棟看護師と訪問看護師の《異なる機関の同職種連携による患者支援の継続性担保の調整や促し》を導いていた。合わせて、退院調整看護師は《円滑な院内の専門職連携に支えられた専門職連携カンファレンスへの多職種参加の促し》の必要性に気づき、《病棟看護師による地域生活者としての患者の対象特性を捉える力の促し》により現任教育への役割を担っていることを認識して実践に取り組んでいた。

本研究は、今後益々重要となる病院からの在宅移行期支援を担う退院調整看護師の実践の構造を明らかにした点で、在宅移行期支援における看護実践および本分野の研究の発展に寄与する重要な知見であると評価された。特に、データ収集を専門職連携カンファレンス、その後のリフレクション、退院後の自宅の3つの場面で行っており、独創性が認められる。また、考察については一部課題が残されたが、予備審査において指摘されたカテゴリー関連図の表現方法などについては、適切に修正されていることを確認した。

以上より、本論文は本研究科博士後期課程学位論文審査基準を満たしていると判断した。

試験結果の要旨

審査対象者 善生 まり子

上記の論文提出者に面接し、論文内容および関連事項について試問をおこなった結果、合格と判定した。

よって、博士（看護学）の学位を受けるに十分な能力を有すると認めた。